



TOJ
S
T

第13号 2008.4

東商LADY

Lady

新会長・副会長挨拶

新体制と組織

視察会報告

チア！ビジネスウーマン2007 in 東京

2008年新年懇親会

レポート

「ものづくり」「商業グループ」

「新会員とのランチミーティング」

ぶらり東京の旅「浅草寺」

全国商工会議所女性会連合会 富山総会



会長
吉川 稲美

個が光るイノベーション(勇気ある挑戦)は「報恩」「感謝」「育成」から

東商女性会は1949年に創立され、今日まで先輩の方々のご努力により確固たる組織として引き継がれて参りました。

そして、齋藤直前会長が会員増強により600名体制を築かれました。私は今後どのようにすることが、先人の方々や会員の皆様のご期待に応えていけることなのかを考え、また「今の時代に必要とされているのは何なのか」を加味しながら、女性会運営にあたりたいと思っています。組織を健全に発展させるためには「継続するもの」と「新たに加えるもの(刷新するもの)」の両方の要素が必要と考えます。今まで女性会事業として取り組んできた懇親会や視察会などの交流事業は、引き続き活発に展開していきたいと思っています。また研修事業については、この大変な時代を生き抜くためには自己研鑽が大事と考え、歴史上の偉人より生き方を学び直すような機会も新たに開設していきたいと考えております。

また一方、「新たに加えるもの」として「社会貢献活動」と「ビジネス事業活動」にも取り組んでいきたいと思っています。

現代の環境の変化から起こる異変、信じられない事件の数々から

察する人心の崩壊、原油の高騰や特に新年以来、株価の大暴落等々挙げたらきりがないほどの世界的経済の不安感、こうした諸々の現象は、私たちに地球の危機、人類の危機を教え、人間としての生き方を根本から考え直す時と教えてくれているように感じます。人間のエゴや競争心、目先のことのみ損得勘定の競争原理が、今日の破壊を生み出していると思えてなりません。

私はこうした状況だからこそ、今こそ、女性が本来持つ能力、すなわち「協調」「順応」「包容力」「忍耐力」そして「育む力」等々の女性の特質を再認識し、競争社会からの脱却を図ることが大切だと思っています。そしてその行動の基本理念を「報恩」「感謝」「育成」に据え、女性会内部や会員同士の事業にとどまらず、外部へ向けての企画事業を提案しながら、次世代を育む環境づくりに貢献できる女性会を目指したいと思っております。このことこそ、個の光るイノベーション(勇気ある挑戦)と思います。

是非、新たな女性会に向けて、会員の皆様のご参画とご協力をお願い申し上げます。

副会長 挨拶

東京商工会議所に(株)観有社として入会して22年。今日までに(株)象英企画を立ち上げ女性会での活動も18年になるうとしております。小泉清子年度、齋藤朝子年度と理事役員の任を受け多くの活動に参加させて頂きました。

近年、人格や女性の品格とか美しい日本という言葉を目にするようになったのは、日本人の心の深層に、かつての日本への回帰の期待が込められているからではないでしょうか。現代社会でも相変わらず経済的成功が人間の最も重要な目的であるかのような風潮ですが、今日東商女性会も60周年を迎えるにあたって、日本の将来、女性会の永続的發展のためにも吉川会長の求める「人格をつくる」「徳性を養う」そして知識を吸収し、真に女性経営者としての「人づくり」ができれば、将来を担う元気な女性起業家を更に増やしていけるのではないかと思うのです。



副会長
井上 象英

は会社を育む環境を重視し、経営に当たる社長や組織の長の責任の重さをあらためて噛み締めるものと考えられます。

「人材育成」と「管理」は渋沢経営学の中で大きな柱となっています。とくに孟子は「天の時は地の利に如かず。地の利は人の和に如かず」と。その中で一番大切なのは人の和と書いています。仲良くなければ調和もバランスもありません。もちろん仕事においても会社経営においても失敗に繋がる。吉川会長のポリシーとする「和」と「社会貢献」は会社経営の前提として、現在の激しい競争社会にそのまま該当する言葉ではないでしょうか。

自分は何がしたいのか。何の為に起業だったのか。女性経営者として経営力だけでなく、「志」という経営者としての頭脳とマインドを育てる活動を皆様と共に行っていきたいと思っております。副会長という重責ではありますが、精一杯女性会の発展に向けて努めたいと思います。浅学非才ですが会員の皆様、ご指導とご協力のほど宜しくお願い致します。



副会長
阿久津 扶見

東京商工会議所女性会の副会長に就任して数ヶ月が経過致しました。実感としては既に1年が経過したのには無いかと思うくらい、仕事と副会長としての任務で多忙の日々でした。東商で私に課せられましたのは新体制で発足した「社会貢献部」と「ビジネス事業部」の担当副会長、加えて「全国商工会議所女性会連合会」の常任理事としての商工会議所の任務です。現在、女性会には60名近い会員が所属しております。企業のリーダーとして活躍されているパワフルの集結は、社会にさまざまな情報発信ができるかと期待しております。女性会新体制の基本理念「報恩」、「感謝」、「育成」に基づき、社会にどのような情報発信し、貢献できるかを考えると重責に身がしめる想いです。

現在、話題映画「アース(地球)」の最後に出る字幕スーパード「今からでも間にあります、出来ることからやってみよう」というメッセージに感動致しました。ストーリーは、地球温暖化の危機に瀕している動物の生態を5年間の歳月をかけ制作されたドキュメンタリー映画です。異

常気象が原因で、厳しくなった自然界の中で弱肉強食の動物の生態と人間社会とが重なり、地球から警告が聞こえるようでした。次世代を担う子供たちの将来を考えると地球温暖化現象による環境問題と教育は無視できない深刻な問題です。

それでは出来ることから何が出来るのか、女性会の活動の一端として「社会貢献部」と「ビジネス事業部」の協力企画を計画しております。会員の方々のパネルによる企業の紹介、多くの人に身近な問題意識として関心を抱いてもらう為に「エコロジー・環境問題」をテーマとした企画です。「出来ることからやってみよう」の精神でメンバーが一丸となって取り組んでおります。全国に402の商工会議所女性会があり、2万5千人近い会員が所属しております。「全国商工会議所女性会連合会」に連動されると女性パワームも強靱な力になります。「地球と子供たちを守るう」をスローガンに、東商から環境問題等に何か提案できるように努力したいと存じます。皆様のご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

各部リーダー挨拶

交流部リーダー 若林和子



吉川会長の新体制の下、リーダーをお受けするならば、何が一番お役に立てるのか考えました。私は、創業して21年経ちました。売上高0、お客様0から始めました。大手の監査法人に10年勤務して独立致しました。女性が活躍できる職場を作りたいという思いで始めました。様々な異業種交流会に参加し、生きた経営の勉強をしてまいりました。最初は、ビジネスチャンスがあればという思いで参加しました。しかし、そのうち、もっともっと大きな力をささがるものなのだと思いはじめました。立派な企業にまで育てられている経営者の方と挨拶を交わしたり、ご相談をしたりしているうちに、自分自身がとても器量の小さい人間だと気がつきました。1個買ってこれるとか、お客様になつていただくとかそういう些細なことではなく、経営者として姿勢を学び、私は大きな教養を頂いていたわけです。やはり、師と仰げる方に出会いたいという思いです。女性会は、お洒落にも気を配り、子供や夫の世話、夫の両親、自分の両親の介護等をごしながら、会社を運営されています。男性の経営者の方ではわからないような「生きる」を傍目では、軽やかにこなされています。交流部は組織の要です。尊敬できる経営者に出会い、気の置けない友人を見つけ、部会に出席すれば、元気だった？ 久しぶり！と声が飛び、参加すれば温かい、そんな会こそ組織の活力の源だと思います。これが、私が交流部のリーダーに手を挙げた理由です。会員の皆様は皆様の助けがないと生きていけません。不束者ですが、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

研修部リーダー 市瀬優子



新体制になって研修部のリーダーを担当させて頂く事となりました。戦後の活力の源であった団塊の世代の大量定年を迎え、高齢化・超少子化の世の中が現実問題として歩み寄って参りました。生産年齢人口の急激な減少時代を迎え、女性の雇用拡大、各々の分野での女性リーダーも益々必要となり、私たち女性会が果たすべき役割も益々重要となって参ります。仕事と子育てを両立促進する為には何をすべきか、財政面・法制面への施策法化を求める事とか、東京商工会議所の一員としても皆様と共に頑張っていきたいと思っております。研修部としては、従来の時流にあった講演会活動と吉川会長ご推薦の自分自身を見つめ直す為の先人の素晴らしい生き方、生き様を学ぶ講座、又は、研修部員だけを講師をお迎えしての勉強会等、新しい企画も皆様のお知恵を拝借して行きたいと思っております。7月又は、8月には研修部としては最大のイベント「サマーセミナー」がごございます。1泊2日で「夢科フォーラム」で開催される予定ですが、今年は去年のような都内（ちなみにアメリア）クラブで120名参加の開催が有力視されております。東京商工会議所も今年は30周年の節目の年を迎え、色々とイベントのございます。当女性会も来年は60周年の節目の年を迎えます。来年のイベントにも関わらず、私たちが研修部の役割は重要で、会長、副会長の下、準備を始めなければなりません。直近の50周年、55周年と成功裏に開催された諸先輩の方々の深いご見識と情熱を受け継ぎ、来年成功裏に終える事が出来ましますよう本年より当研修部に追加頂きましてご協力御指導賜りますようお願い申し上げます。

社会貢献部リーダー 清水洋子



この度、吉川稲美会長の下、素晴らしい人々に「人の縁」にめぐり合い、新体制のスタートとなりました。また、東商女性会も小泉清子名誉会長様をはじめ、齋藤朝子前会長様が女性としての品格を大切に学び、笑顔で愛される、また、夢のある会として伝えられたその歴史を守ることが私たちの役目と考えております。私はこの度、社会貢献部のリーダーの大役をお任せ頂けました。環境、教育、福祉と重大な任の重さに身の引き締まる思いでございます。近年、地球温暖化が話題となる環境問題は、21世紀の大きなテーマといえます。その解決には皆様一人ひとりが手を繋ぎ、ひとつの心になることが必要であり、それがこの会の願いでもあります。また、4部体制との連携を図ることが大切なことと思っております。今年、東商30周年を迎え記念すべき年でもあります。7月には「環境サミット」と称される洞爺湖サミットを控え、女性会として、知的ネットワークを広げ、社会貢献活動にまい進していきたいと思っております。吉川会長は女性会活動の理念として、報恩（受けた恩を大切に）感謝（ありがたみと思う心）育成（育て上げる。未来の青少年）を掲げておられます。この言葉を大切に、心新たに持ちこたえたいと思っております。今後、社会貢献部の皆様、吉川会長、担当阿久津副会長と共に素晴らしい女性会を目指していきたくと思っております。皆様のご協力とご尽力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。結びと申しますが、社会貢献部に希望くださいました皆様に、厚く感謝を申し上げます。

ビジネス事業部リーダー 小林栄子

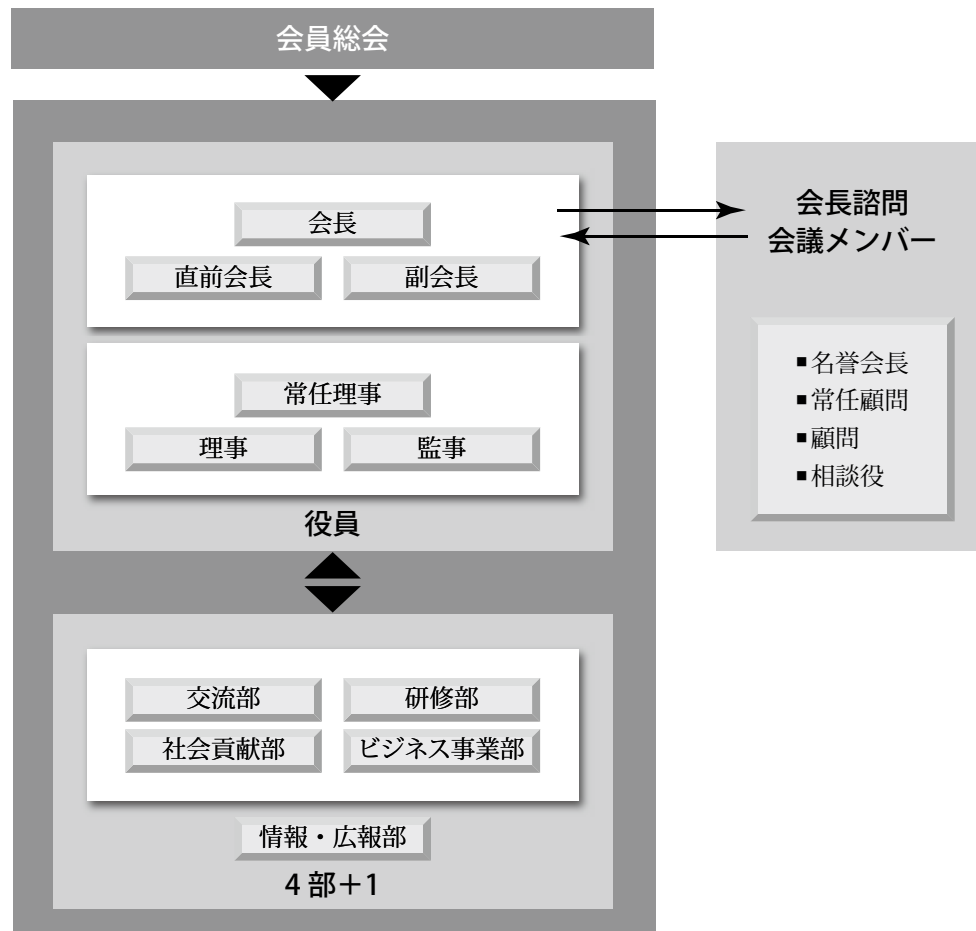


この度、新体制で新たにスタートしましたビジネス事業部のリーダーをお引き受けることになりました。高齢であり、世事に疎い私にはとても重い役割ですが、力まずに自然体で頑張りたいと思っております。当然、皆様の力強いサポートも期待いたしております。女性会にはいろいろな集まりがあり、それぞれが会員間の交流に大きな役割をはたしております。ビジネス事業部も当然、会員間の親睦に寄与していきますが、やはり、経営に携わる会員の皆様にビジネスの側面でお役に立つイベントを企画していきたいと思っております。今日のように成熟した社会においては、物も情報も溢れており特定の商品に対して消費者の購買意欲を引き出すことは大変困難に思えます。事業をする人にとっては大変厳しい世相です。よく、他の企業との差別化を図れといわれますが、何をどう差別化させるかが分りません。会員会員間で成功例、失敗例を発表しあうだけでもいい、そんな中で思いがけずヒントが見つかるかも知れません。無理な企画をしても内容に共感していただければ意味がありません。また、ビジネス事業部は外の世界との交流も積極的にしていきたいと思っております。公演を聴くのも良いが、デパート、スーパーなどで実際に市場の動向を勉強するなど出来ないか等と考えております。皆様から次々と面白い企画が飛び出すような生き生きとしたビジネス事業部になりたいと考えておりますので宜しく御願ひ申し上げます。

情報広報部リーダー 田中洋子



楽しい視察会や思わず頷く研修会、そんな感動を誰かに伝えたくなる時、そんなあなたの手で「東商女性会」から発信してみませんか？ 明日の記者はあなたです。何かの行事の際にはぜひお気軽に、その会の担当者にお声をかけ下さい。私達の情報・広報部は、皆様の声に形にする為の特殊な部として、今回新たに生まれ替わりました。部員全員は「速、正しく、公平に」を理念に事を進めています。ウェブの上で会議する姿の见えない妖精の様に働く部員達です。現代では会社や組織名での検索が一般化し、『東商女性会ホームページ』も24時間、会員の皆様や外部の方々、会についての情報を伝えていきます。それは一方的な様に見えるながら、実は毎日多くの人々が訪れて時を過ごす、紙の無い小さな図書館の様です。そして片や、紙の手触りやインクの匂いと共に、皆様のお側でいつでも手に取れる冊子として『東商LADY』が発行されているのです。部員の両翼であるこれら2つは、対極ながらバランスがとれております。新体制が掲げる「大切に継続して残すもの」と「刷新して行くもの」にも似ています。国内で私達をとりまく状況は、ますます国際化してゆきます。翻って、代表者が世界に向け日本の立場を語る時、国内世論の力は一層大きな役割を担うようになりました。その中でも、近年女性企業家が意見を求められる場が、増えてまいりました。日本伝統の紙文化において、日々進化する電子文字の文化において、これから私達は何を語り、何を残すでしょうか。皆様と一緒に考えたいと思っております。



5部による活動

各部リーダーを中心に全会員対象の事業を企画・実施をいたします。
会員の皆さまの各部への積極的なご参加をお待ちしております。

交流部 新年懇親会、視察会など会員相互の交流、
他の女性会との交流を図るための事業を企画・実施。

研修部 女性経営者の資質向上のための研修会等の事業を企画・実施。

社会貢献部 「教育問題」や「環境問題」について、部内で検討したテーマをもとに
提言または事業を企画・実施。

ビジネス事業部 展示会や自社PR、見本市などの企画運営。

情報・広報部 会員の交流、活動の情報をホームページ、年2回の女性会会報誌
「東商LADY」を通じて内外にPR。
※情報・広報部は専門メンバーで運営しております。

ホームページ <http://joseikai.tokyo-cci.or.jp/>

臨時総会が 開催されました

平成19年11月21日東商ヒル国際会議場にて、平成19年度臨時会員総会が、開催されました。はじめに、女性会会長の選任報告が行われ、新会長に任命された吉川稲美氏から就任の挨拶をいただきました。引き続き、顧問、相談役の選任報告があり、その後、新理事と監事が選任可決されました。

また、これまで正副会長としてご活躍され、このたび
直前会長・名誉会長に就任された齋藤朝子氏、顧問に就任された山崎登美子氏、山野壽子氏、安間百合子氏、渡辺光子氏、小林栄子氏、の皆様方からも挨拶がありました。
その後、特別会議室で行われました懇親会では、小泉清子名誉会長から、挨拶をいただき、前役員の方々への労をねぎらわれ、また「今後の活動へ期待する」とのお話を頂戴いたしました。
記…奥永久美

視察会

「美枝きもの資料館」「八ッ沢水力発電所」視察会

11月29日今回は、山梨県にある「美枝きもの資料館」見学と、東京電力「八ッ沢水力発電所」の視察、その間にフジッコワイナリー工場の視察などが含まれる、盛り沢山の内容でした。

参加者に乗せたバスは、一路甲斐路を目指し快調にスタート、車内では吉川会長からの挨拶、その中で、東京商工会議所創設者渋沢栄一翁の「論語と算盤」を引用され、深く考えさせられた。

その後、参加メンバーの自己紹介があり、車窓の風景は甲斐の国へ、バスガイドさんの武田信玄公とその一族、家臣達についての話に耳を傾けるうちに、「美枝きもの資料館」へ到着しました。

ここは、山梨県南巨摩郡身延町三沢に位置し、創設者である上田美枝氏が資財を投じて昭和53年に建造。本年は、故高松宮妃喜久子殿下のご薨去より三年祭にあたり、その御遺徳を偲び「高松宮妃喜久子殿下

を偲ぶ」特別展が開催されています。

展示物についての説明をお聞きし、江戸、明治、大正、昭和という歴史の流れの中にあつて、日本人の「キモノ」がどの様に変遷して行ったかということを知る機会となりました。高貴な身分の方が着用なさる芸術作品にも等しい雅なキモノと、一般庶民が着ていたキモノとの対比も大変興味深く拝見させて戴いた。貴重な展示品の数々を目の当たりにし、日本の伝統文化の真髄に触れた様な感動を覚えた。

昼食を挟んでの午後東京電力葛野川PR館へとバスは移動しました。大月市にある当館では、葛野川発電所における水力発電のシステムについてレクチャーを受け、世界最大級の落差を誇る揚水発電所の概要を知ることができました。

その後、発電所の見学バスに乗り換え、明治40年完成の猿橋取水口を車窓から眺め、100年後の今日に至

るまでびくともしない確かな技術に驚嘆させられました。

明治40年に、東京電力(当時は東京電灯)が駒橋発電所において初の55KV送電を行っており、早稲田変電所を経て麻布、麴町一帯へ供給したそうです。それ以来今日に至るまで、電気の最大消費地の東京へ供給が続けられているのでしょう。

桂川は河岸段丘の底を流れる溪流。渓谷は紅葉に彩られ、そこに掛けられている木製の猿橋は、周囲の自然景観と見事に調和していました。猿橋の歴史は古く、地元の伝説によると、百済の造園博士、志羅呼が白猿の群れが葛や蔓を用いて川を渡るのを見てヒントを得、架橋したといわれています。眼下に目をやると八ッ沢発電所一号水路(平成9年国の文化財登録)が見え、桂川に掛かるこの水路とのコントラストが面白く感じました。

記…中西志保美

チア！ビジネスウーマン2007 in 東京

cheer! Business Woman 2007 in Tokyo

清々しい秋の一日、平成19年10月20日（土）東京商工会議所国際会議場に172名の会員や外部の参加者が集い、「チア！ビジネスウーマン2007 in 東京（東京・武蔵野・町田商工会議所女性会、内閣府主催、関東商工会議所女性会連合会後援）」が開催されました。



次世代の女性キャリアを育てる！

～ビジネスウーマンに必要な品格・資質とワークライフバランス～



今後の女性と仕事のあり様としては、時間の長さではなく成果としての評価が必要であり、色々なロールモデルとなるように女性同士のネットワーク作りが大切と言われました。更に、求められる女性リー

パネルディスカッションには、休業者の職場復帰サポートシステム開発で話題の株式会社ワーク・ライフバランス代表取締役小室淑恵氏、『女たちは管理職をめざす』の作者で東京女学館大学国際教養学部教授西山昭彦氏、経済産業省資源エネルギー庁総合政策課長補佐児玉直美氏をパネリストに迎え、元NHKアナウンサーでキャスターの草野満代氏をコーディネーターに開会されました。ディスカッションでは「ワークライフバランス」という言葉がようやくここ数年で浸透し、「ワークライフバランス」の施行は企業利益に結びつく事を企業が理解し始めた。そして取り組んでいる企業は、女性の比率が高く、ワークライフバランスを施行しつつ男女均等に処遇する会社の利益率が高いとの説明がありました。



記…石野康子

ダー像とは、全て自分がやるのではなく部下と相談しながら「任せられる人」が望まれ、また、女性の弱点は社内政治に疎いところであり、それをカバーするためには、自分自身が参加しなくてもうまく情報を取り入れる事が重要であるとお話でした。そのような女性のキャリアを育てるためには、トップが社内何割を女性にするという数値目標をたて、管理職の意識を変えて行く必要があるとお話がありました。未来に向かって明るいメッセージを伺いながら、白熱したパネルディスカッションは終了しました。

午後2時より2時間にわたり今を輝く女性の若きリーダーや専門家の講演を熱心に全身で受け止めていた参加者は、そのままの熱気をこめてパーティー会場に移動しました。パネリストの前には長蛇の列が出来、名刺交換など交流の場は盛り上がり上がっていました。すれ違う場所もないほどの混雑の中、次世代を自差す参加者のあふれんばかりのエネルギーを感じました。

記…西尾多恵子

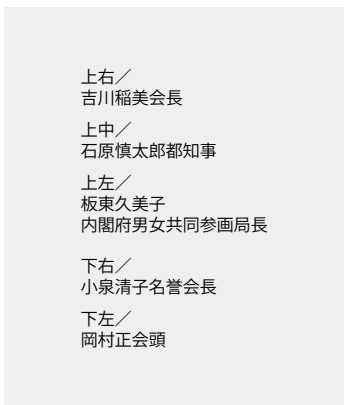
「参加者交流懇親」

第2部



二〇〇八年 新年懇親会

平成20年1月24日ホテルオークラ



上右／吉川稲美会長
上中／石原慎太郎都知事
上左／板東久美子内閣府男女共同参画局長
下右／小泉清子名誉会長
下左／岡村正会頭

昨年の秋、齋藤朝子前会長より吉川稲美副会長が会長を引き継ぎ、井上象英新副会長、阿久津扶見新副会長、以下常任理事5名、理事23名、監事2名の新役員も加わった新体制で出発した東商女性会は、初めての全体会、新年懇親会を開催しま

した。
当日、石原都知事を初め板東久美子内閣府男女共同参画局長、岡村正東商会頭、副会頭、支部の会長等のご来賓、また会議所の役員の皆様にご参加下さいました。

第1部 ウェルカムコンサート

津軽三味線5重奏ユニット『我人』による演奏。新年にふさわしく、日本の伝統を受け継ぐ若者達のエネルギーギツシユなパワーに会場からも拍手や手拍子が

上がり、日本の未来に希望を感じさせる幕開けとなりました。

第2部 懇親会

今年の司会進行は、安楽淳子会員が務めました。始めに、挨拶に立たれた吉川稲美会長は、女性会の活動を「交流」「研修」の継承する部分と、「社会貢献」「ビジネス事業部」を加えた4部体制で展開し、その基本理念に「報恩」「感謝」「育成」を据えて行きたい。更に、地球環境の変化から起こる異変などに対し、女性力が持つ「忍耐力」「育む力」などの女性の特質を發揮すべき時ではないか、と抱負を述べました。会場は、新体制への励ましと期待の拍手に包まれました。

続いて、石原都知事からは、科学者などの話を例に挙げ、地球温暖化問題について、人類初めて遭遇するであろう試練に向かいつつあるので、子孫のためにも本気で考えていかなければならない時期であると、危機感を述べられました。

板東久美子内閣府男女共同参画局長からは、我が国は女性達の仕事と家庭を両立していきける条件整備・環境がまだまだ不十分である。仕事と生活の調和・ワークライフバランスが政府のなかでも大きなテーマとなっている。東京商工会議所及び女性会でもこの問題に積極的に取り組んでいるので、いい形でパートナーシップを取らせていただきたいと挨拶がありました。続いて岡村正東商工会議所新会頭からは、昨年11月に就任した時に掲げた「個が光るイノベーション」について、技術革新だけでなく、社会の仕組み・経営の仕組みそのものを変えて行くという心を持たない

と日本の企業・産業は成長しない。また、環境問題やワークライフバランスなどの問題に対して、女性経営者から見た提案をお願いし、その意見を参考にしたい。提案活動なり支援活動を続けて行きたい。日本の女性経営者の起動力として、大いなる力を發揮していただきたいなどの女性会への期待のご挨拶がありました。

続いて小泉清子名誉会長からは、地球・世界が不安であるなか、自身が携わっている大河ドラマの主人公の生き方を例に挙げ、その生き方にあやかり、これからの時代の流れをキメ細かい感性で信念を強く持つて、希望をいたしながら生き抜いていかなければならない。と力強い言葉で挨拶がありました。

さらに齋藤朝子名誉会長からは、女性会のネットワークを通じて、この一年をいい年にし、皆様の活躍と、企業のご繁栄を祈念します。と乾杯の挨拶をいただきました。

懇親会では懐かしい方々の再会で話も弾み、新旧会員の皆様のご歓談も終始和やかな雰囲気のみならず、恒例のお楽しみ抽選会が行われました。今年も沢山の役員の皆様からご協賛いただき、当選番号が発表されるたび、会場からは歓声があがりました。

最後に井上象英新副会長が、干支が一巡し、新しく子年から始まる歳、女性会の新体制もスタートしました。ご参会下さった300名もの皆様に感謝いたします。と閉会の挨拶をいたしました。

『我人』による演奏

～今年、東京商工会議所は130周年を迎えます～



吉川稲美新会長挨拶

皆様改めまして新年おめでとうございます。皆様におかれましては、新年をいかがお迎えにられましたでしょうか？

今年、東京商工会議所は130周年を迎え、また女性会も59年を迎えます。

私は昨年11月齋藤会長の跡を継いで女性会七代目の会長に就任し、本日の新年会が就任後、初めての全体の会合でございます。

今回は役員と有志の方々の協力で進めて参りましたが、準備の時間も無く、どのような事になりますかと案じておりましたが、

本日はこうしてたくさんの方々の皆様方にご出席を戴き、大変嬉しく思っております。

その上、本日は、石原東京都知事を初めと致しましてご来賓の皆様、そして岡村正会頭を初め副会頭の皆様、各支部の会長様、また中村利雄専務理事を初めと致しました会議所役員の皆様、皆様様がご多用の中お出かけを戴きまして、本当に有り難く感謝の思い一杯でございます。

さて私は、これからの女性会の活動を「交流」「研修」の継承する部分と、新たに「社会貢献」「ビジネス事業部」を加えた活動を展開していきたいと考えております。そしてその行動の基本理念を「報恩」「感謝」「育成」に据えて、参りたいと思っております。

昨今の地球環境の変化から起こる異変、信じられない事件の数々から察する人心の崩壊、経済におきましても原油の高騰や特に新年以来、株価の大暴落等々、挙げたらきりが無いほどの世界的経済の不安感、こうした諸々の現象は、私たちに地球の危機、人類の危機を教え、人間としての生き方を根本から考え直す時と教えてくれているように感じます。

人間のエゴや競争心、目先のことのみの損得勘定の競争原理が、今日の破壊を生み出していると思えてなりません。

石原慎太郎東京都知事ご挨拶

本日はお招きいただきありがとうございます。

私と吉川新会長は不思議な縁で、私が国会議員の頃から若手の経営者が私の会を作ってくれまして、その中で紅一点のメンバーが新会長でした。その頃からのつきあいで、今日は新会長に就任されたということでお

私はこうした状況だからこそ、今こそ、女性が本来持つ力、能力、それは「協調」「順応」「包容力」「忍耐力」そして「育む力」等々の女性の特質を発揮すべき時と思うのです。

今更このようなことを...と思われる方もいらっしゃるかも知れません。しかし私は、日々の地道な努力を重ねることが自分を育て、人を育て、結局は、実践者が道を切り開く事になるのだと思います。

そしてこのことこそ、岡村会頭が掲げられました「個が光るイノベーション」の、女性にとつての「個が光るイノベーション」(勇氣ある挑戦)ではないかと思えるのです。

何かを付け加えるのではなく、本来有るものを磨き輝かせること、こうして自分自身の内面を育て、人間の器を広げ輝いてこそ、はじめて仕事の幅も広がるのではないのでしょうか？

出会いは人を育てるチャンスなのだと聞きます。女性会での出会いを、お互いに向上心を持って自己研鑽しながら、皆様と力を合わせて活動を展開しながら、周りの方々に良い影響を与えられるような女性会にしていきたいと思っております。

本日も私たちはおいとお料理に恵まれ、そしてこのように素晴らしい会場や出合いも戴いております。お互いに総てに感謝をしながら、これからのことについて、それぞれのテーブルでお話し合いをして戴きながら交流を深め、楽しいひとときをお過ごし頂ければ幸いです。

結びにあたり、本年が安全で健やかに無事で、そしてまた本日出席頂きました皆様にとりまして、本年末には、それぞれが確かなる自己の向上が感じられるような、心豊かな、充実した一年で有りますよう祈りながら、私の挨拶とさせていただきます。

記：大津洋子、伏屋ひろ美

祝いを言いに行った次第です。

新年ですからおめでとーと言いたいのですが、年を重ねることに私は大きな危機感を感じてなりません。これは主に環境問題が原因でしょうが、25年くらい前、東京で宇宙物理学者として有名な

上右／
齋藤朝子 名誉会長
上中／
井上象英 副会長
上左／
阿久津扶見 副会長
下右／
若林和子 交流部リーダー
下中右／
市瀬優子 研修部リーダー
下中左／
清水洋子 社会貢献部リーダー
下左／
小林栄子 ビジネス事業部リーダー



皆様、あけましておめでどうございます。このように華やいだ席にお招きくださいまして、私も東商の一員でありますけれども、今日はゲストとしてお招きいただき、この会を楽しませていただきたいと思います。また、石原都知事そして今ご挨拶いただきました

岡村正会頭ご挨拶

こういふ状況がどんどん進むと、スイスのローヌ氷河が10km先まで無くなり、次に北極の氷が溶け出す。今年の夏は300平方キロの水が溶けました。冬になって戻らるだろうと思ったら、400平方キロしか戻らない。NASAのジェームズ・ハッセルという有名な物理学者は、このままで行くとあと18年で北極海の氷が無くなる、と報告しています。そんな中、北極海を挟んでいるアメリカと

ロシアとカナダが、氷が無くなったらまた石油と天然ガスを掘ろうとしています。ますますCO₂を出すようなことを。私は昨年夏に南太平洋の小さな島国のツバルという国に行ってきました。これだけ氷が溶け出し、水が増えると地球全体が沈没してしまいますから、赤道付近の島国などが一番影響を受けてどんどん水没して行きかねない。あと50年ほどで水位が後2〜3m上がるといわれています。東京や上海やニューヨークなど海に近い大都市は大変なことに

この本を見ますと、この文明の進んだ地球上で1秒の間に何が起きているかというデータを1秒間の間に人間が1日に必要とする70トンの酸素が減少している。大型トラック630台分の化石燃料が消費されている。テニスコート20面分の原生自然林が無くなっている。200平米の土地・耕地が減少している。13台の自動車を作り出されている。同時に1秒間に0.4人が餓死している。ということになり、25秒に一人、世界中で餓え死にしている

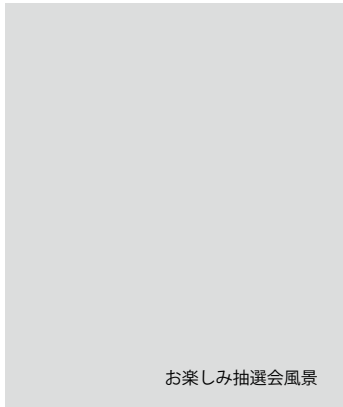
板東内閣府男女共同参画局長の参加をいただきました。このように華やかに新年祝賀会が行われしことを、心からお慶び申し上げます。さて、経済情勢でありますけれども、申すまでもなく波乱の幕開けとなりました。日本の将来に

「たとえ明日地球が減じるとも、君は今日リンゴの木を植える」という本に美しい志、美しい言葉ですね。私はこの言葉に感銘を受けました。今人間がその気にならないと、25年先私たちの子孫、その後の子孫は難しいかもしれない。あらゆる改善策を探り、実行しなければならぬ。その選択を今強いられていると実感して過ごしてあります。それそれが、それぞれの場所で行うことをお子さん、お孫さん、ひ孫さんのために考えようじゃありませんか。そういうときが来たと思います。終わります。ありがとうございます。

実際に学者は、あと5年でくるといっているんですから。今、本気で取り組まないと、とんでもない取りこぼしをしかねない。人類が初めて遭遇する危機に、みんなでお互いにどう立ち向かうかを考えないといけない時代になったということです。私は亡くなった小説家の開高健と親しかったのですが、彼は、好きだったポーランドの詩人ゲオルグの一言を良く引用していました。「たとえ明日地球が減じるとも、君は今日リンゴの木を植える」という本に美しい志、美しい言葉ですね。私はこの言葉に感銘を受けました。今人間がその気にならないと、25年先私たちの子孫、その後の子孫は難しいかもしれない。あらゆる改善策を探り、実行しなければならぬ。その選択を今強いられていると実感して過ごしてあります。それそれが、それぞれの場所で行うことをお子さん、お孫さん、ひ孫さんのために考えようじゃありませんか。そういうときが来たと思います。終わります。ありがとうございます。

経営者の皆さんなら自分の社員、自分の企業の中で努力されるのは当たり前のことですが、もっとそれを超えて本気で25年先、この地球上の人類はどうなるかということを考えていただきたい。あと10年経つと大飢饉が予想されている。今でも25秒に一人が餓死している状況の中で、次の氷河期に向かう前兆だ、という学者もいますが、こちらで相当なことを考えないと、これは本当にやっかいなことになる。経営者の皆さんなら自分の社員、自分の企業の中で努力されるのは当たり前のことですが、もっとそれを超えて本気で25年先、この地球上の人類はどうなるかということを考えていただきたい。あと10年経つと大飢饉が予想されている。今でも25秒に一人が餓死している状況の中で、次の氷河期に向かう前兆だ、という学者もいますが、こちらで相当なことを考えないと、これは本当にやっかいなことになる。

記・林香都恵



お楽しみ抽選会風景



おいての不安を感じずにはならないところがございますが、しかしながら、日本経済とはそれほど弱いものではないと、政府が、非常に強い層を持った経済であり、今日から取り組めば、必ずや今年の半ば過ぎには、再び大きな回復の方向に向かうと確信いたしておりまして、決してこの株価の動きによって、我々が一喜一憂することもなく、我々のやるべきことを整然とやり、ということが最も必要なのではないかと思っております。

昨年11月に就任いたしましたときに、「個が光るイノベーション」ということをあげさせていただきました。イノベーションを「技術革新」という風によく訳されますけれど、私は決して技術革新だけではなく、対社会の仕組み、経営の仕組みを思い切った変えていくと、そういうイノベーションの心を持たないと日本の企業は成長しない、産業も成長しないという思いが強く心にございます。商工会議所としてもひとつひとつの企業がいかんして輝くかということをおベースにして、これからも活動を続けるべきだと、役員一同決意を新たに、今年度も取り組んでいきたいと思っております。

小泉清子名誉会長挨拶

皆様、先ほど石原都知事が、お正月でおめでたいけれどもめでたくないというお話を承りまして、確かに本当にうかがうとその通りだと思えます。でも商工会議所全体にとっては、新しい岡村会頭を迎えまして、また、新しい吉川会長が誕生しまして、皆様新しい役員の方、会員の方々が一致団結してこれから一所懸命、再出発しようというところに対しては私もおめでたいと思えます。改めて、新年明けましておめでとございます。

もうすでに始まっている、大河ドラマ「篤姫」でございますが、久しぶりに日本女性の活躍、素晴らしい女性のドラマでございます。將軍家定の御台所になり、そして、天璋院になるまでにそれはつらく茨の道を潜り抜け、そして針の筵を踏んでいたに違いないと思いた。14代將軍の御台所の和宮とともに、江戸城無血開城を成し遂げた幕末の激動の時代に、埋もれていた女性の行動力そして、忍耐力はどこから出たのでしょうかと私は思っております。私がこの「篤姫」の衣装考証家としてこの台本を読んでいるうちに、非常に感動したことがございました。それは篤姫が実家を出るときに、菊本という乳母が、言った言葉です。「女の道は一本道でございます。定めに背き引き返すは恥でございます。この言葉を篤姫は心の底に持ち、貫き通したわけ

東商女性会は、昨年の秋に、吉川新会長がお就きになりまして、新しい体制での活動を開始される、非常に心強い限りでございます。これからは、先ほどの、石原都知事のお話ではありませんが、女性経営者からの見た社会問題、環境問題、ワークライフバランスの問題に對しまして、女性経営者の目から見たご提案を是非お願いしたいと思えます。そういうご意見を参考に、是非提案活動なり、支援活動を続けていきたいと思っております。是非日本の女性経営者の起動力として、大なる力を発揮していただくことをお願いいたします。

130年を今年、東商は迎えます。今週の初めに東商ビルに、洪沢栄一爺の「企業と社会を結ぶ組織でありたい」という願いをこめた大きな懸垂幕を下げました。加えて20年オリンピック招地に向けて、東商もしっかりと協力をしていく、23区の発展のためにぜひとも招地をしたいと思いをこめて、その洪沢栄一爺の「結ぶ」ということとして、オリンピック招地ということ、今年から大きく掲げることいたしました。

簡単でございますけれども、ご挨拶に変えさせていただきます。本日は、おめでとございます。

記・奥永久美

でございます。常に前向きにして、そして、天下国家のために尽力した篤姫の本当に大変な幾多の道を歩んできた生き方に、私たちはあやかっ、生きていかなければならないし、これからの時代の流れを脈深い感性で信念を強くもって生き抜いていかななくてはならないと存じております。

特に今の世の中は、先ほど石原都知事が申されたように、地球が不安です。それから、世界が不安です。日本経済も不安だと思えます。今私たちがその不安によって、希望をどこに求めてよいかわからないという時代でございます。自分自身がどうしたら希望が見出されるかという、そして自分自身の知恵と行動で、切り開いていかなければならない世の中になってきたと思っております。今年はずみ年です。本当は繁栄の年なのでございます。国の繁栄になるかならないかは、わかりませんが、私たちが女性経営者としてしっかりと希望を抱きながらこれからは歩いていきたいと存じますので、皆様と一緒に本当によりよくお願い申し上げます。どうも有難うございました。

記・奥永久美

ものづくりグループ

体験型シリーズセミナー
「日本の伝統技術（ものづくり）から
新たな経営視点を探る」

第3回
「漆について、金継ぎと茶の湯」

10月3日、研修部ものづくりグループの体験型シリーズセミナー「日本の伝統技術から新たな経営視点を探る」の第3回セミナーが開催され、30名が参加しました。

好評の体験型シリーズ第3回（最終回）は、2月21日開催された第1回「炭と鉄瓶そして漆」の続編です。

第1部は塚本尚司氏のやさしくも熱い講話。

漆の99%は今や中国から輸入されている。日本の伝統を守るには、まず日常で使うこと。

本物の漆の質感は子供の頃から使ってこそ、そのよさが理解できる。子や孫に、女性こそが日本の伝統を伝えていってほしいというお話でした。

そして金継ぎのお話に移り、金継ぎされ、甦った器の写真を見せていただき、日本伝統技術の確かさと人の手の暖かみを感じることができました。

第2部は炭と鉄瓶で沸かしたミネラルたっぷりのお湯で入れた美味しいお茶とお菓子の会。

暖かい炭と鉄瓶を囲んで、ものづくり文化の大切さ、素晴らしさを話し合い、このような会を是非続けていきたいと、全員一致で終了致しました。

記：小幡美佐子

ものづくりグループ

体験型シリーズセミナー
「日本の伝統技術（ものづくり）から
新たな経営視点を探る」

第2回
「日本の伝統技術
体験 金箔はり（手鏡）」

7月12日、研修部ものづくりグループの体験型シリーズセミナー「日本の伝統技術から新たな経営視点を探る」の第2回セミナーが開催され、34名が参加しました。

日本の誇り高き伝統産業と文化の一つに金箔貼りがあります。第1部講師の浅野邦子氏は、金沢箔の技術継承と発展だけではなく、本流を大切に守りつつ、さらなる躍進のために信念と情熱をもって「輝きの文化を明日の歓びに」をスローガンに、現代の生活空間に役立つ新商品を開発しておられます。その波乱万丈の人生を熱く語って頂きました。

第2部での箔貼りの体験はとても面白く、あっ！という間の1時間（タイムオーバー）出来上がった時の感激は最高で、「日本のものづくり文化」の素晴らしさを再認識できたひと時となりました。

記：塚本夏代



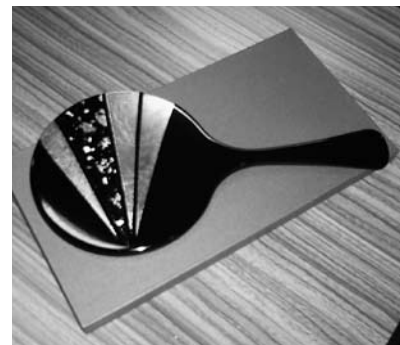
講師の浅野邦子氏



それぞれが真剣に



金箔貼りの最中



出来上り

第4回 新会員とのランチミーティング

10月15日（月）午前11時20分より、第4回新会員とのランチミーティングが、開催されました。数寄屋橋交差点に程近いビル8階のクルーズクルーズは、大型客船という設えのお店です。ホールからの階段を上った、船室風のセーヌの間には、平成19年度の新入会員ミーティング事業の最後を飾るにふさわしく、72名の出席者が集いました。

吉川稲美副会長の挨拶の後、秋限定の和の食事コースが運ばれ、それぞれのテーブルが談笑に包まれました。その後、交流部新入会員ミーティンググループの安達昭子理事の司会で、全員の自己紹介が行われ、新入会員36名の会社PRが続きました。

既に今までのミーティングで何回か同席している方々も多く、各々の会社の事業内容や商品についての、具体的な質疑応答も活発に飛び交う中、名刺や資料の交換に、瞬く間に2時間が過ぎました。最後に、新会員の皆さんより、この様に女性会に速やかに溶け込んでゆける企画を、また期待しているという要望があり、充実したミーティングは終了いたしました。

記：田中洋子



「炭と鉄瓶そして漆」続編



「ザ・流通」第3回 講師：安島幸雄氏



「ザ・流通」第3回終了後 参加者と



第4回新入会員とのランチミーティング

商業グループ 「ザ・流通」

第3回

「流通から見る日本のビジネス」 ～新旧の利点と欠点～

安島幸雄氏による「ザ・流通」セミナーの第3回目が、7月4日に開催されました。今回のテーマは、中・米各国の流通に続き、いよいよ日本の流通についてです。出席者は、当日参加も含め40名でした。

多くの山と川を持つ日本は、天然の物流インフラに恵まれ、荘園経済の問識に始まる「問屋」に情報が集まったため、大阪を本拠とする卸業者が、近代に至るまで商業の中心となったこと。清盛から家康までの歴史上の人物の商売に対する取り組み等を学んだ後、20世紀半ばの流通革命を経て、今日のリンクしていく小売業の実態の説明がありました。

最後に、司馬遼太郎の「思無邪」（思いよこしまなし）と、呂蒙の「男子（女子も同じですが）三日会わざれば、刮目して相對せよ」という二つの座右の銘を紹介されました。前者は、金儲けは結果であって、そのために悪事を行ってはならない。後者は、日々学習せよということです。これは、「マーケティングは生もの」という先生の言葉と共に、経営に携わる私たちの心に深く刻まれるものとなりました。

記：藤岡実佐子

金

龍山浅草寺は東京都内最古の寺院です。地元では観音菩薩を本尊とすることから「浅草観音」あるいは「浅草の観音様」と呼ばれ広く親しまれているため、現在も変わらず全国各地の人々が参詣に訪れています。もとは天台宗に属していましたが、戦後独立して聖観音宗の総本山となり、都内で唯一の坂東三十三箇所観音霊場の十三番札所となっています。由緒をひも解

けば、推古天皇三十六年（六八八年）、土師真中知（はじのまつち）の家臣である檜前浜成・竹成（ひのくまはまなり・たけなり）兄弟が現在の墨田川である宮戸川で漁をしていたところ網に一寸八分の黄金の仏像がかり、この像を拜した土師真中知は出家して屋敷を寺に改めて供養しました。この像が浅草寺本尊の聖観音像です。その後、大化元年（六四五年）、勝海上人が寺を整備し、観音の夢告により本尊を秘仏と定めたと伝えられ、さらに平安時代初期の天安元年（八五七年）に天台宗延暦寺の僧、慈覚大師が来寺して「お前立ち」（秘仏の代わりに人々が拜むための像）の観音像を造ったと伝えられています。



ぶらり

東京の旅 [浅草寺]

す。本堂は観音堂とも呼ばれ、旧堂は慶安二年（一六四九年）の再建でしたが昭和二十年（一九四五年）の東京大空襲で焼失、昭和三十三年（一九五八年）に再建されたものです。表参道入口の雷門は慶応元年（一八六五年）に焼失。その後永らく仮設の門が建てられていましたが昭和三十五年（一九六〇年）、松下幸之助が浅草観音に祈願して病氣平癒した報恩のために寄進し、鉄筋コンクリート造で再建されました。門内には松下電器産業寄贈の大提灯があり、年に一度三社祭と台風到来の時だけ提灯がたたまれます。古くより多くの参拝者で賑わっていた浅草寺は明治以降には境内が公園地として整備され「浅草六区」が誕生します。すると大衆娯楽の街として栄え、地元商店街のPR活動によって徐々に戦前過去の賑わいを取り戻しつつあります。浅草は浅草寺の門前町として、時代とともに栄え現在に至っています。

記：井上象英

未来を育む・エンジェル大作戦

季

（金）東海大学校友会館にて情報・広報部とく得プラザによる「未来を育む・エンジェル大作戦」が行われました。

少子化対策を念頭に東商女性会会員からご推薦をいただいた方同士に出会いの場を提供するという企画で、男女それぞれ35名ずつ、あわせて70名のご参加をいただきました。

ゲームや小道具が会員の手作りなら、ピアノのBGMも会員の生演奏というアットホームな会場の雰囲気は促されたのか、山崎登美子副会長の参加者を激励する挨拶に始まることすぐに参加者同士うち解け、ゲームにも積極的に参加し、気がつけば霞ヶ関ビル33階からの夜景を指さしながら話していたり、ゴルフの予定をたてているグループもありました。

最終的に予想を超えた8組のベストカップルが誕生したというのは嬉しいことでした。最後に渡辺光子副会長の挨拶でお開きとなりました。名残を惜しむかのように参加者はなかなか会場を離れようとしませんでした。何もかもが初めてのことで、とまどいを覚えながらも準備を進めてまいりましたが参加者の笑顔に確かな手応えを感じ、未来へつながることを祈念しつつ閉会となりました。



記：椿克美
写真：石野康子

スペイン風セレナーデ ダイナーコンサート

2

月8日（金）の夜、有楽町にある外国特派員協会で、交流会が開催され、東商女性会からは55名が参加しました。ゲストには、駐日スペイン大使ミゲルA・カリエド夫人をお迎えし、女性会会員以外のお客様には外国の方も数多く、進行は全て英語で行われ、さすがにインターナショナルな雰囲気でした。

主催である東京シンフォニアの音楽監督ロバート・ライカー氏のご挨拶に始まったダイナーコンサートは、料理と料理の間に曲が演奏され、「演目もワンディッシュ」というコンセプトのもとに演出されました。ライカー氏の「音楽を楽しんでください」という言葉と温かい笑顔に包まれて、スペイン料理と音楽をしっかりと堪能させていただきました。最後に阿久津扶見副会長、若林和子常任理事より大使夫人と指揮者に花束が贈呈されて無事に閉会しました。楽団の背景に広がる20階からの眺めとともに、スペインの情緒豊かな音楽が思い出に残るダイナーコンサートとなりました。

記：写真：椿克美





全国商工会議所女性会 連合会

2007年10月 第39回富山総会を開催



富

山県富山市の富山国際会議場で開催した第39回富山総会には、全国から281女性会等、約910名が参加。女性会会員で埋め尽くされた会場は熱気に包まれました。

本総会は「委員会活動報告」として、4つの委員会（総務・政策・広報・企画調査）の活動（①女性会設置と全商女性連への加入促進等②食育や少子化問題、省エネルギー問題への取り組み等③ホームページをはじめとする広報の拡充、「がん・生活習慣病の予防に関する啓発活動支援」による女性会の社会的アピール等④女性起業家の支援等）が報告されるとともに「第6回女性起業家大賞」の表彰式、全商女性連表彰などが行われました。

昭和44年の全国商工会議所婦人会連合会設立総会の開催以来、その会員数を増やし、全国規模で全国大会・総会を開催してきました。現在、全商女性連は402女性会、2万5千人を超える会員数を誇る日本最大級の女性経営者団体です。全国大会・総会は、各女性会が意見要望活動、社会福祉活動、環境保全活動、国際交流活動など、地域経済社会における女性のリーダーとして、更に積極的な活動を展開するにあたり有益なネットワーク作りの場となっています。



ゴルフ同好会

ゴルフ同好会の歩み



第

13回同好会コンペが19年10月11日、埼玉にあります「平成倶楽部」で29名の参加で開催しました。女性会ゴルフはいつもお天気に恵まれ、今日は良いスコアで：なんてそれぞれ心の中で思いながらの1日でした。今回のコースはクラブハウスが京都風の素敵な建物で、プレーのあと、成績発表など和気藹々のパーティーを楽しみました。優勝は、亀田敦子さん2位は土居芳子さんでした。又、12月3日同好会19年度総会、懇親会を「日本工業倶楽部」で行いました。総会も無事に終了し、懇親会では林達夫氏による「縁を結び縁を尊び縁に従う：豊かな人生は出会いから」という感動する卓話をして頂き、皆でゴルフの反省、来年の抱負など、グリーンを離れた楽しい一時を過ごしました。20年度第1回コンペは4月22日「桜ヶ丘カントリークラブ」で行います。第2回は7月5日（土）、6日（日）蓼科で、今年も皆様の参加を楽しみにしています。

記・保田和江



行事

東商女性会の今後の主な行事予定
平成20年4月～平成21年3月

- 4月16日（水）
第1回研修会
〈於 東商ビル〉
- 4月24日（木）
関東商工会議所女性会連合会総会（浦安大会）
〈於 東京ベイホテル東急〉
- 5月14日（月）
第2回研修会
- 5月19日（月）
「團菊祭五月大歌舞伎」観劇会
〈於 歌舞伎座〉
- 5月26日（月）
ランチミーティング
〈於 東商ビル〉
- 6月10日（火）
会員総会・懇親会
〈於 東商ビル〉
- 6月20日（金）～22日（日）
社会貢献イベント（仮称）
〈於 新宿駅西口イベントコーナー〉
- 7月・8月（予定）
サマーセミナー
- 9月（予定）
第3回研修会
- 10月（予定）
例会
- 11月27日（木）～28日（金）
全国商工会議所女性会連合会沖縄全国大会
〈於 沖縄コンベンションセンターほか〉
- 1月19日（月）
新年懇親会
〈於 帝国ホテル〉
- 2月（予定）
第3回研修会
- 3月（予定）
第4回研修会



東京商工会議所は2008年、創立130周年を迎えます



東商LADY

2008年4月20日 第13号

発行所
東京商工会議所会員交流センター

発行人
東京商工会議所女性会
会長 吉川稲美

編集人
東京商工会議所女性会
<http://joseikai.tokyo-cci.or.jp/>
情報・広報部

表紙写真:(c)ORION PRESS/amanaimages